

障害者のICTを活用した社会参加推進セミナー

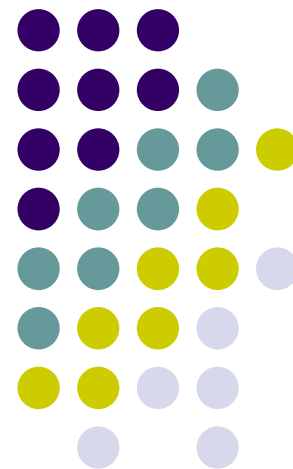
ICTによる

テレコミュニケーションの活性化

— 聴覚・言語障害者にも暮らしやすい社会をめざして —

NPO法人コミュニケーション支援センター

細川 正嗣





はじめに

- 聴覚・言語障害について

- 手話について



聴覚・言語障害と電話

- 電話 = FAX ?
- 電話 = Eメール ?
- 電話 = チャット ?

- 電話の世界



アメリカのTTYについて

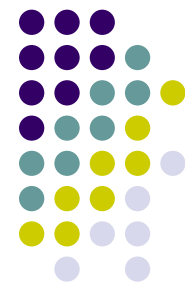
- 1960年代に聴覚障害者の科学者が作った
- タイプライターとモデムを一体化にし、電話信号を発受信するもの
- 電話回線RJ-11に接続または、受話器をカップリングに置くことで可能
- アメリカでは、公衆網にもTTYを設置している
- 電話リレーサービスとしても活躍



沿革

- 1994年 非営利団体として創設。
- 1995年 インターネットの商用利用の開始に伴い、マルチメディアを使った支援手法を構築。また、クリエイター養成校デジタルハリウッドと共同で聴覚障害者向けのクリエイターセミナーを日本で初めて開催。
- 1997年 NTTパーソナル(PHS)と連携で日本で初めて登場した携帯メール機能を活用した通信コミュニケーションを広げる。現在の携帯メールのスタイルがこのごろに確立。
- ・ 1999年 都内のろう学校に、ICTを活用した授業支援を開始。
- 2002年 NPO法人化。
TV電話リレーサービスの可能性を模索するために実験検証開始。
- 2006年 聴覚障害児たちに携帯電話教室を開催。プロ野球観戦のテーマで学習支援を構築。

TV電話リレーサービスの概要



- リレーサービスを使って、聴者と容易に会話するのが可能
- 手話を使うため、文字でのやりとりよりも早く、利用シーンを広げる
- アメリカでもTTYのほか、TVによるリレーサービスも実施している



サービスの特徴

- 携帯電話を使うため、どこでも持ち歩くことができる
- 簡単な操作なので、すばやくセンターとアクセスできる
- 音声電話と同じように双方向性を維持しながらの通信ができる



サービスの成果

- 電話網システムの活用を広げ、サービスの充実が実現できたこと。
- 聴覚・言語障害者の社会参加に応える手段が確立された。
- 当団体内でTVによる会話時間と文字チャットによる方式と比べ、2分の1に軽減し、迅速に実現できた。

サービスの問題点



- プライバシー保護について
- 費用上の問題点
- その他



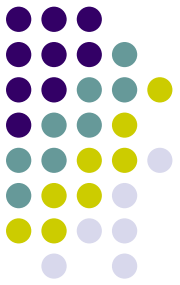
今後の展開

- 日本版のTTY
- パブリックアクセスポイントの必要性
- その他

おわりに



聴覚・言語障害者の電話ニーズに対応できる
業務知識とノウハウとともに、安心して暮らせる
社会を実現できるように引き続いて貢献して
まいります。



ご清聴有難うございました。